

「まちおこし」先進地視察研修

主催：上越観光案内協会

日時：平成28年11月2日（水）

場所：村上市（六斎市、黒塀通り、晩翠堂）

参加者：まちづくり団体25名

行程：午前10時～午後12時 六斎市・黒塀通りの見学

午後1時～3時30分 町家を改装した晩翠堂で長尾景友氏の講演

（左図、晩翠堂ホームページより引用）



先進地視察研修を終えて

「まちおこし」先進地である村上市を訪ねて学んでこようと企画されたこの度の試みは、予想以上に学ぶところが多かった。

村上市が年間何度か開くイベントに合わせて訪ねるのではなく、全く普通の日に訪ねることが視察としてはベターであろうと考え日程を考慮した。ただ、六斎市という市が開かれている日を選んだ。上越においても開催されている「市」を歩けば村上市民の姿を上越のそれと比較し、よく見ることができるのではないかと考えたのである。

午前7時に上越市内リージョンプラザ横の大駐車場を出発、午前10時に村上市着というスケジュールはハードなものであったが、六斎市を歩くことですっかり心癒されることになった。心をこめて案内して下さった市民ガイドには嬉しさをおぼえ、大きな声で挨拶する子供たちの明るい声に、ついこちらも笑顔で応えていた。「市」には子どもたちも参加して販売行為の学習中である姿に引き込まれていた。

水曜日は定休日であるはずを返上して「はらこ飯」を提供して下さった新多久（料亭）「黒塀通り」の発案と中心的推進力を担った女将が、その苦労話を熱く語って下さったのであるが、心を込めた料理と共に、その経緯には学ぶところが多く、とても充実した昼食タイムであった。

午後の研修では、新潟観光カリスマの吉川真嗣氏と組んで村上市のまちおこしに尽力する長尾景友さんを講師に学んだ。

彼は音楽活動と同時に、古民家を買入れ、そこを拠点に市民と音楽を通じて交流しつつ、またその古民家で民泊や民宿を実践できないかと準備を進めている様子を公開。同じ町内のリーダーと共に、国の支援を得ながら次へのステップを模索中である様子をありのままに語ってくれたのであった。

具体的な古民家の再生と今後の活用策を目の当たりにして、参加した上越市民26名はまさに先進地の事例を目と耳で確認した一日となった。

アンケートは帰途の車中でまとめられたものであり、このツアーの参加者による話し合いの場を継続的に開いて欲しいという声もあることから、具体化したいと考えているところである。